

日本サッカー協会 プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則

加筆 \_\_\_\_\_ 修正 \_\_\_\_\_ 削除 \_\_\_\_\_

現行

変更案

備考

プロサッカー選手に関する契約・登録・移籍について

日本サッカー協会 プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則

1. プロ契約制度

1-1 プロ契約制度の概要

登録区分	選手種類		人数制限	契約可能年数	契約締結条件	報酬	移籍金の上限
プロ	統一契約選手	プロA選手 <small>契約書の色 ホワイト</small>	25名以内	制限なし	規定試合出場またはプロC契約を3年経過	<b>基本報酬</b> 480万円/年以上 ただし、A契約初締結時は700万円/年以下とする <b>変動報酬</b> 制限なし。 本文1-3④参照。	移籍金算出基準
		プロB選手 <small>契約書の色 ブルー</small>	制限なし	制限なし	同上	<b>基本報酬</b> 480万円/年以下 <b>変動報酬</b> 制限なし。ただし、出場プレミアムを設定する場合は5万円/試合以下とする	30万円×在籍年数
		プロC選手 <small>契約書の色 グリーン</small>	制限なし	初契約から3年間	なし	<b>基本報酬</b> 480万円/年以下 <b>変動報酬</b> 出場プレミアム(5万円/試合以下)・勝利プレミアムのみ可	本文3-2②(3)参照
その他	統一契約以外の契約を締結した外国籍選手		プロA選手として扱う	制限なし	なし	—	—
	法人と雇用契約のみを締結した選手(社員選手)		制限なし	制限なし	—	—	30万円×在籍年数
アマチュア	アマチュア選手	報酬または利益を目的とすることなくプレーする選手	制限なし	—	—	—	トレーニング費用請求基準

1. プロ契約制度

1-1 対象

本協会に登録するすべての選手を対象とする。

1-2 プロ選手

- ①本規則においてプロ選手とは、その所属クラブとの書面による契約を有しており、当該選手のサッカー活動の対価として当該選手が被る費用を実質的に上回る支払いを受ける者をいう。
- ②プロ選手は、次の各号の事項を遵守しなければならない。
  - (1) 満16歳以上で、かつ、本協会の加盟チームに所属し、本協会の認定を受けていること
  - (2) 本協会および選手の所属するクラブの加盟するリーグまたは連盟等の統括組織(以下総称して「加盟リーグ等」という)がみずからのために広告・宣伝活動を行う場合は、原則として無償で協力すること
  - (3) 国内・国外を問わず、本協会主催以外の試合に出場する場合は、事前に本協会の承認を得ること
  - (4) 競技会の会場においては、本協会または「加盟リーグ等」の承認なくしては、いかなる広告・宣伝活動も行わないこと
- ③契約の最長期間は5年間とする。ただし、18歳未満の選手は最長3年間とする。
- ④契約の最短期間は、原則として、当該契約の効力発生日からシーズン終了時までとする。
- ⑤契約の効力は、医学上の検査が良好であること、または、査証等選手の就業に関する行政による認可の可否を条件としてはならない。
- ⑥プロ選手は、同一期間について二つ以上の契約を締結してはならない。
- ⑦いかなるチームも、その契約の相手方または第三者に対して、選手の役務提供もしくは移籍に関連する事項またはチームの独立性、方針もしくは運営に関連する事項に影響を及ぼす力を付与する条項を含む契約を締結してはならない。

規則の位置づけを明確化する。

「プロ選手の遵守事項」基本規程から本規則に移動させる。

1-2 対象

JFAに登録するすべての選手を対象とする。

1-3 プロA契約・プロB契約

①契約締結条件

次のいずれかを満たすことをプロA契約およびプロB契約の締結条件とする。

(1) 試合出場

- ◆ J1 : 450分
- ◆ J2 : 900分
- ◆ JFL : 1,350分

※ 試合出場時間は公式記録によるものとする。ただし、出場時間が1分未満の場合(記録上は0分)は、1分としてカウントする。

(2) プロC契約3年経過

②対象となる試合

(1) リーグ別対象試合

- ◆ J1 : リーグ戦、リーグカップ戦、スーパーカップ、天皇杯
- ◆ J2 : リーグ戦、リーグカップ戦、スーパーカップ、天皇杯
- ◆ JFL : リーグ戦、スーパーカップ、天皇杯

※1 天皇杯の出場実績は、J1・J2・JFLに所属するクラブの第1種チームのメンバーとして出場した場合に限り、カウントする。

※2 JFLに加盟している大学チームに所属する選手の出場実績は、上記いずれの大会においてもカウントしない。

※3 特別指定選手が、上記のリーグ別対象試合にJクラブの選手として出場した場合、プロA契約およびプロB契約締結条件の出場実績としてカウントする。

(2) J1の対象試合と同様にカウントする試合および大会

- ◆ 日本代表Aマッチ (FIFAが認定する代表チーム同士の試合)
- ◆ オリンピックサッカー競技およびオリンピックサッカー競技アジア地区2次予選、最終予選
- ◆ アジア競技大会
- ◆ FIFA U-20ワールドカップ本大会
- ◆ AFCチャンピオンズリーグ
- ◆ A3チャンピオンズカップ
- ◆ 上記以外にFIFA、AFCが主催するチャンピオンクラブを出場対象とした大会

※ 海外のプロリーグでの実績評価については別途定める。

③試合出場時間換算方法

移籍およびクラブの昇降格により、選手の所属するリーグが変更となる場合、既に出場している時間は次のように換算する。

- (1) J1 から J2 へ変更 ⇒ J1 での出場時間を 2.0倍 に換算
- (2) J1 から JFL へ変更 ⇒ J1 での出場時間を 3.0倍 に換算
- (3) J2 から JFL へ変更 ⇒ J2 での出場時間を 1.5倍 に換算

1-3 プロA契約・プロB契約 ([別紙]表-1 参照)

①契約締結条件

次のいずれかを満たすことをプロA契約およびプロB契約の締結条件とする。

(1) 試合出場

- ◆ J1 : 450分
- ◆ J2 : 900分
- ◆ JFL : 1,350分

この場合において、試合出場時間は公式記録によるものとする。ただし、出場時間が1分未満の場合は、1分としてカウントする。

(2) プロC契約3年経過

②対象となる試合

(1) リーグ別対象試合

- ◆ J1 : リーグ戦、リーグカップ戦、スーパーカップ、天皇杯
- ◆ J2 : リーグ戦、リーグカップ戦、スーパーカップ、天皇杯
- ◆ JFL : リーグ戦、スーパーカップ、天皇杯

※1 天皇杯の出場実績は、J1、J2またはJFLに所属するクラブの第1種チームのメンバーとして出場した場合に限り、カウントする。

※2 JFLに加盟している大学チームに所属する選手の出場実績は、上記いずれの大会においてもカウントしない。

※3 特別指定選手が上記のリーグ別対象試合にJクラブの選手として出場した場合、プロA契約およびプロB契約締結条件の出場実績としてカウントする。

(2) J1の対象試合と同様にカウントする試合および大会

- ◆ 日本代表Aマッチ (FIFAが認定する代表チーム同士の試合)
- ◆ オリンピックサッカー競技およびオリンピックサッカー競技アジア地区2次予選、最終予選
- ◆ アジア競技大会
- ◆ FIFA U-20ワールドカップ本大会
- ◆ AFCチャンピオンズリーグ
- ◆ 上記以外にFIFAまたはAFCが主催するチャンピオンクラブを出場対象とした大会
- ◆ その他本協会が認めた試合

(3) 海外のプロリーグ

海外のプロリーグにおける実績評価については、別途定めるものとする。

③試合出場時間換算方法

移籍およびクラブの昇降格により選手の所属するリーグが変更となる場合、既に出場している時間は、次のように換算する。

- (1) J1 から J2 へ変更の場合: J1 での出場時間を 2.0倍 に換算
- (2) J1 から JFL へ変更の場合: J1 での出場時間を 3.0倍 に換算
- (3) J2 から JFL へ変更の場合: J2 での出場時間を 1.5倍 に換算

スルガ銀行チャンピオンシップ等の試合への対応。

- (4) J2 から J1 へ変更 ⇒ J2 での出場時間を 1/2 に換算
- (5) JFL から J1 へ変更 ⇒ JFL での出場時間を 1/3 に換算
- (6) JFL から J2 へ変更 ⇒ JFL での出場時間を 2/3 に換算

④プロA契約の報酬

- (1) 基本報酬は480万円/年以上とする。原則としてその他の制限はないが、初めてプロA契約を締結する場合のみその基本報酬は700万円/年を超えてはならず、変動報酬は本制度の主旨を逸脱しない範囲で設定しなければならない。なお年度途中でプロA契約に変更した場合、当該残存年度における契約が、700万円/年の制限対象となる。
- (2) プロC契約締結時にプロA契約2年目以降の報酬について約束してはならない。

⑤プロB契約の報酬

- (1) プロB契約の基本報酬は480万円/年を超えてはならない。
- (2) 変動報酬は自由に設定できる。ただし、出場プレミアムを設定する場合は5万円/試合以下とする。

1-4 プロC契約

①プロC契約の締結(図-1)

1-3①の試合出場時間を満たしていないアマチュア選手、社員選手がプロ契約を締結する場合、必ずプロC契約を締結しなければならない。

②契約可能期間

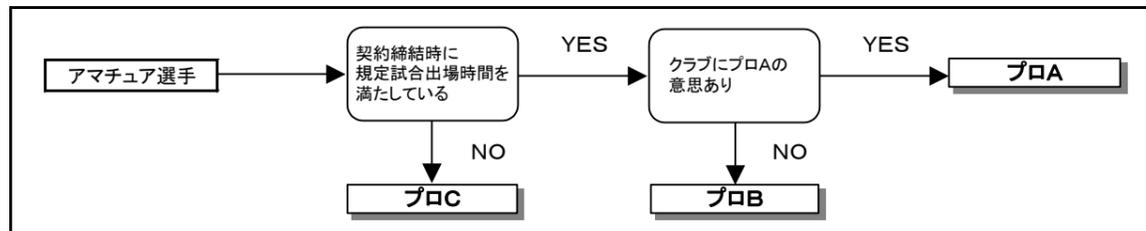
プロC契約を締結できる期間は、アマチュア選手、社員選手から初めてプロC契約を締結して3年間とする。3年を経過した後に引き続きプロ契約を締結する場合は、プロA契約またはプロB契約を締結しなければならない。

※ プロC選手が契約3年未満で他クラブへ移籍する場合、それまでのプロC契約経過年月日は移籍後も引き継がれる。

③プロC契約の報酬

- (1) プロC契約の基本報酬は480万円/年を超えてはならない。
- (2) 変動報酬は出場プレミアムおよび勝利プレミアムに限り設定することができる。ただし、出場プレミアムは5万円/試合以下とし、勝利プレミアムはクラブにおけるプロA契約の勝利プレミアムの最低金額を上回ってはならず、本制度の主旨を逸脱するものであってはならない。

図-1<アマチュアから初めてプロ契約を締結する時の流れ>



1-5 外国籍選手

①登録数

プロ契約を締結した外国籍選手の登録は1チーム3名以内(以下「3名枠」という)とする。ただし、下記(1)、(2)に該当する場合は、「3名枠」を超えて登録できるものとするが、いずれの場合も、外国籍選手の登録人数の総数は、JFAの基本

- (4) J2 から J1 へ変更の場合：J2 での出場時間を 1/2 に換算
- (5) JFL から J1 へ変更の場合：JFL での出場時間を 1/3 に換算
- (6) JFL から J2 へ変更の場合：JFL での出場時間を 2/3 に換算

④プロA契約の報酬

- (1) プロA契約の基本報酬は年額480万円以上とする。原則としてその他の制限はないが、初めてプロA契約を締結する場合に限り、その基本報酬は年額700万円を超えてはならず、変動報酬は本制度の主旨を逸脱しない範囲で設定しなければならない。年度(2-1⑤に定めるもの。以下「年度」という)途中でプロA契約に変更した場合には、当該年度の残存期間における契約が年額700万円の制限対象となる。
- (2) プロC契約締結時にプロA契約2年目以降の報酬について約束してはならない。

⑤プロB契約の報酬

- (1) プロB契約の基本報酬は年額480万円を超えてはならない。
- (2) プロB契約においては変動報酬は自由に設定できる。ただし、出場プレミアムを設定する場合は1試合あたり5万円以下とする。

1-4 プロC契約 ([別紙]表-1および図-1 参照)

①プロC契約の締結

1-3①の試合出場時間を満たしていないアマチュア選手または社員選手がプロ契約を締結する場合、必ずプロC契約を締結しなければならない。

②契約可能期間

- (1) プロC契約を締結できる期間は、アマチュア選手または社員選手が初めてプロC契約を締結してから3年間とする。3年を経過した後に引き続きプロ契約を締結する場合は、プロA契約またはプロB契約を締結しなければならない。
- (2) プロC選手が契約3年未満で他のクラブへ移籍する場合、それまでのプロC契約経過年月日は移籍後も引き継がれるものとする。

③プロC契約の報酬

- (1) プロC契約の基本報酬は年額480万円を超えてはならない。
- (2) プロC契約においては変動報酬は出場プレミアムおよび勝利プレミアムに限り設定することができる。ただし、出場プレミアムは1試合あたり5万円以下とし、勝利プレミアムはクラブにおけるプロA契約の勝利プレミアムの最低金額を上回ってはならず、本制度の主旨を逸脱するものであってはならない。

1-5 外国籍選手

①登録数

プロ契約を締結した外国籍選手の登録は1チーム3名以内(以下「3名枠」という)とする。ただし、下記(1)または(2)に該当する場合は、「3名枠」を超えて登録できるものとするが、いずれの場合も、外国籍選手の登録人数の総数は、本協会

図削除  
⇒ 「別紙」へ移動

規程で認められている5名（以下「5名枠」という）を超えてはならない。

- (1) アマチュア選手または20歳未満のプロC選手
  - (2) アジアサッカー連盟（AFC）加盟国の国籍を有する選手1名（ただしJリーグに所属するクラブに限る）
- なお、クラブが外国籍選手と契約のみ締結し登録しない場合、事前に所属するリーグの承認を得るものとする。

**②登録数の例外措置**

次の条件を具備する選手は、事前に所属するリーグの承認を得た場合に限り、「3名枠」または「5名枠」の対象外とする。ただし、いずれの場合も外国籍選手総数で5名を超えて登録してはならない。

- (1) アマチュアまたはプロC契約の外国籍選手が、年度途中でプロC契約以外の契約に移行する場合、その年度に限り「3名枠」を超えて登録できる。ただし、外国籍選手総数で5名を超えて登録してはならず、また事前に所属するリーグの承認を得なくてはならない。
- (2) ケガ、疾病等により年度中の復帰が不能と認められた選手について、事前に所属するリーグの承認を得た場合、その年度に限り、プロ契約を保持したまま登録を抹消することができる。

**③契約書式**

クラブは、外国籍選手とプロ契約を締結する場合、統一契約またはそれに準ずる契約により締結しなければならない。

**④外国籍選手とプロC契約を締結する際の注意事項**

上記②に述べられているプロC選手の登録に関する優遇措置は、実績のない若年層選手と契約することを容易にするために例外的取扱いとして認められたものである。よって、その契約のために、契約金・移籍金・その他多額の経費を要するものであってはならない。

**1-6 選手の登録数**

**①プロA選手の登録数**

- (1) 選手登録できるプロA選手は、第2種（ユース）登録選手も含め、クラブ全体で25名以内（以下「25名枠」という）とする。
- (2) 外国籍選手は「25名枠」の対象とする。ただし、外国籍のアマチュア選手およびプロC選手は除く。
- (3) AFCチャンピオンズリーグに出場するクラブは、当該年度（2月～1月）に限り、プロA契約選手の「25名枠」を「27名枠」とする。

**②プロA選手以外の登録数**

プロB選手、プロC選手、社員選手、アマチュア選手の登録数は制限しない。

**③「25名枠」の例外**

- (1) 年度途中のプロA契約への変更  
アマチュアまたはプロC選手が年度途中でプロA契約に移行した場合は、その年度に限り「25名枠」の対象外とする（外国籍選手も同様）。ただし、プロB選手が年度途中でプロA契約に移行した場合は、「25名枠」の対象とする。
- (2) 自クラブの下部組織出身および在籍選手  
自クラブの下部組織のチームにアマチュア選手として1年以上在籍し、かつ継続して同クラブのチームに在籍している選手がプロA契約を締結した場合、プロA契約に移行した年度を含め、3年度「25名枠」の対象外とする。ただし、外国籍選手はこれに含まない。

の基本規程で認められている5名（以下「5名枠」という）を超えてはならない。この関係で、クラブが外国籍選手と契約を締結するのみで登録はしない場合には、当該クラブは、事前に所属するリーグの承認を得るものとする。

- (1) アマチュア選手または20歳未満のプロC選手（「外国籍選手枠 対象外認定申請書」（書式F）により申請）
- (2) アジアサッカー連盟（AFC）加盟国の国籍を有する選手1名（ただし、Jリーグに所属するクラブに限る）

**②登録数の例外措置**

次の条件を具備する選手は、事前に所属するリーグの承認を得た場合に限り、「3名枠」または「5名枠」の対象外とする。ただし、いずれの場合も外国籍選手総数で5名を超えて登録してはならない。

- (1) アマチュアまたはプロC契約の外国籍選手が年度途中でプロC契約以外の契約に移行する場合、その年度に限り「3名枠」を超えて登録できる。ただし、外国籍選手総数で5名を超えて登録してはならず、また、事前に所属するリーグの承認を得なくてはならない。
- (2) ケガ、疾病等により年度中の復帰が不能と認められた選手については、事前に所属するリーグの承認を得た場合（「外国籍選手枠 対象外認定申請書」（書式F）により申請）、その年度に限り、プロ契約を保持したまま登録を抹消することができる。ただし、当該選手はその年度内において再び登録することはできない。

**③契約書式**

クラブは、外国籍選手とプロ契約を締結する場合、統一契約書式またはそれに準じる契約書式により契約を締結しなければならない。

**④外国籍選手とプロC契約を締結する際の注意事項**

上記②(1)に述べられているプロC選手の登録に関する優遇措置は、実績のない若年層選手と契約することを容易にするために例外的取扱いとして認められたものである。よって、その契約のために契約金・移籍補償金・その他多額の経費を要するものであってはならない。

**1-6 選手の登録数**（[別紙]表-1 参照）

**①プロA選手の登録数**

- (1) 選手登録できるプロA選手は、第2種（ユース）登録選手も含め、クラブ全体で25名以内（以下「25名枠」という）とする。
- (2) 外国籍選手は「25名枠」の対象とする。ただし、外国籍のアマチュア選手およびプロC選手は除く。
- (3) AFCチャンピオンズリーグに出場するクラブは、当該年度に限り、プロA契約選手の「25名枠」を「27名枠」とする。

**②プロA選手以外の登録数**

プロB選手、プロC選手、社員選手およびアマチュア選手の登録数には制限がないものとする。

**③「25名枠」の例外**（「プロA契約25名枠 対象外認定申請書」（書式G）により所属リーグに申請）

- (1) 年度途中のプロA契約への変更  
アマチュアまたはプロC選手が年度途中でプロA契約に移行した場合は、その年度に限り「25名枠」の対象外とする（外国籍選手も同様）。プロB選手が年度途中でプロA契約に移行した場合は、「25名枠」の対象とする。
- (2) 自クラブの育成組織出身および在籍選手  
自クラブの育成組織のチームにアマチュア選手として1年以上在籍し、かつ継続して同クラブのチームに在籍する選手がプロA契約を締結した場合、プロA契約に移行した年度を含め、3年度目までは「25名枠」の対象外とする。ただし、外国籍選手はこれに含まない。

(3) ケガ・疾病等  
ケガ・疾病等により年度中の復帰が不能と認められた選手は、その年度は「25名枠」の対象外とする。(要医師の診断書)

(4) 海外研修からの帰国  
所属リーグに事前に通知し、海外研修している選手が、日本の年度途中で帰国し、再登録する場合、その年度に限り「25名枠」の対象外とする。ただし、年度最初の公式試合前に帰国した場合は、「25名枠」の対象とする。

(5) 期限付移籍の選手  
期限付移籍の選手は移籍先クラブでは「25名枠」の対象とし、移籍元クラブでは対象外とする。

(6) その他  
上記に該当しない場合は、Jリーグ理事会でその措置を決定する。(JFLにも関係する場合は、JFA理事会で決定する)

※「25名枠」の対象外となっているプロA選手が他クラブへ移籍する場合、移籍先クラブにおいては「25名枠」の対象となる。

1-7 他クラブのユース選手への接触

①ユース選手の育成およびプロ契約締結に関する妨害の禁止

クラブによる、自クラブのユース選手の育成およびプロ契約締結に関し、他クラブはそれを妨げてはならない。

②クラブの承諾

クラブが他クラブのユース選手へのスカウト活動を行なう場合は、活動を始める前に必ずその選手が所属するクラブの承諾を得なければならない。

1-8 契約更新

翌年1月31日に満了するプロ契約を締結している選手の契約更新手続きは次のとおりとする。

① クラブから選手への契約更新通知

クラブは選手に対し、契約期間が満了する年の前年の11月30日までに、翌年度以降の契約条件を「契約更新に関する通知書」(書式A)により通知しなければならない。

②クラブと選手の契約交渉

- (1) クラブは上記①の通知後、すみやかに選手との交渉の場を設定し、12月31日までに、翌年度以降の契約条件についての話し合いを終えなければならない。ただし、クラブが契約更新しない旨の通知をした場合は、その限りではない。
- (2) 12月31日までに、更新通知に対する選手からの返答がなかった場合、選手は契約更新を承諾したものとみなす。

(3) ケガ・疾病等  
ケガ・疾病等により年度中の復帰が不能と認められた選手は、その年度は「25名枠」の対象外とする(ただし、医師の診断書を必要とする)。

(4) 海外研修からの帰国  
海外研修している選手が所属リーグに事前に通知し日本の年度途中で帰国し再登録する場合、その年度に限り「25名枠」の対象外とする。ただし、年度最初の公式試合前に帰国した場合は、「25名枠」の対象とする。

(5) 期限付移籍の選手  
期限付移籍の選手は、移籍先クラブでは「25名枠」の対象とし、移籍元クラブでは対象外とする。

(6) 「25名枠」の対象外となっているプロA選手が他のクラブへ移籍する場合、移籍先クラブにおいては「25名枠」の対象となるものとする。

(7) その他  
上記のいずれにも該当しない場合は、Jリーグ理事会でその措置を決定する(JFLにも関係する場合は、本協会理事会で決定する)。

1-7 他クラブの育成組織の選手への接触

①育成組織の選手の育成およびプロ契約締結に関する妨害の禁止

クラブによる当該クラブの育成組織の選手の育成およびプロ契約締結については、他のクラブはそれを妨げてはならない。

②クラブの承諾

クラブが他のクラブの育成組織の選手へのスカウト活動を行う場合は、活動を始める前に必ず当該選手が所属するクラブの承諾を得なければならない。

1-8 契約更新 ([別紙] 図-2 および 図-3 参照)

① 他クラブとの契約

他クラブに在籍するプロ選手との間でプロ選手としての契約を締結しようとするクラブは、当該プロ選手との交渉に入る前に書面により当該プロ選手がその時点で在籍するクラブに通知しなければならない(「他クラブ在籍プロ選手との契約交渉開始に関する通知」(書式I)により通知。写しを所属リーグに提出)。当該プロ選手は、当該プロ選手のその時点のクラブとの契約期間が満了したか、または期間満了前6ヶ月間に限り、他のクラブと契約を締結することができるものとする。かかる規定に違反したクラブまたは選手に対しては、以下の制裁が科されることがある。

- (1) 違反当事者がクラブの場合：最大2つの登録ウインドー期間について、新たな選手の追加登録の禁止
- (2) 違反当事者が選手の場合：最大6ヶ月の出場停止処分

②クラブから選手への契約更新通知

クラブは、その所属選手に対し、新たな契約を締結する意思およびその契約条件を「契約更新に関する通知書」(書式A)により、遅くとも以下の期日までに通知しなければならない。

- (1) 1月1日から1月31日の間に契約期間が満了する契約を締結している場合：リーグ戦が終了した日の翌日から5日後まで
- (2) (1)以外の日を期間満了日とする契約を締結している場合：契約期間満了の2週間前まで

③クラブと選手の契約交渉

クラブは、上記②の通知後すみやかに選手との交渉の場を設定し、以下の期日までに新たな契約の条件についての交渉を終えなければならない。当該期日までに更新通知に対する選手からの回答がなかった場合、選手は、契約更新を承諾したものとみなされる。

- (1) 1月1日から1月31日の間に契約期間が満了する契約を締結している場合：12月31日まで
- (2) (1)以外の日を契約期間満了日とする契約を締結している場合：契約期間満了日まで

FIFA規則に合わせる。

以下、「契約更新」の手続きを規定する。

**③選手契約の締結**

クラブと選手は、翌年度以降の契約条件について合意した場合、すみやかに契約を締結し、その写しをJリーグに提出しなければならない。

**④最終提示額証明書の発行**

クラブと選手との交渉が決裂し、契約更新しないことが確定した場合、クラブは当該選手に対し、ただちに、交渉の場において最終的に提示した報酬額を明記した「最終提示額証明書」（書式C）を発行し、同書類をJリーグに提出しなければならない。

**⑤移籍リストへの登録**

- (1) 12月31日までにクラブと選手との交渉が決裂して契約更新しないことが確定した場合、クラブはただちに、当該選手を移籍リストに登録しなければならない。
- (2) 12月31日までに契約更新の最終合意に至らなかったが、選手に契約更新の意思がある場合、選手とクラブの合意があれば、移籍リストへの登録を延期することができる。
- (3) 移籍リストへの登録申請は「移籍リスト登録申請書」（書式B）により行なう。（以下も同様）。

**⑥他クラブとの交渉**

移籍リストに登録された選手は、自由に他クラブと交渉できる。

**⑦プロA契約を更新または締結する場合の特記事項**

- (1) クラブの専属交渉期間
  - イ. 12月31日までの期間を、クラブの専属交渉期間とする。
  - ロ. クラブの専属交渉期間中は、選手は他のクラブと移籍に関する交渉を行なってはならず、他クラブも当該選手と移籍の交渉その他一切の接触をしてはならない。
- (2) 再交渉  
クラブとの交渉が決裂し、移籍リストに登録された選手は、現所属クラブから申し入れがあった場合に限り、当該クラブと再度交渉することができる。その場合、クラブは当初提示した報酬額を減額することができる。

**⑧プロB契約を更新する場合の特記事項**

プロB契約の更新の場合、クラブは、選手と契約条件の交渉中であっても、当該選手が希望すれば、ただちに、移籍リストに登録しなければならない。その場合、クラブの当該選手に対する契約締結義務は消滅する。また、当該選手は移籍リストに登録されたとしても、クラブと交渉を続けることができるが、クラブは当初提示した報酬額を減額することができる。

**⑨プロC契約を更新する場合の特記事項**

- (1) クラブが前年を下回らない契約条件の更新通知をした場合  
クラブが選手に対し前年を下回らない契約条件の更新通知をした場合、原則として選手は同クラブにおいて契約しなければならない。
- (2) クラブが前年を下回る契約条件の更新通知をした場合  
クラブが選手に対し前年を下回る契約条件の更新通知をした場合、更新手続きはプロB契約を更新する場合（上記①～⑥、⑧）と同様とする。

**④選手契約の締結**

クラブと選手が新たな契約の条件について合意した場合、両当事者は、すみやかに当該契約を締結し、クラブは、その写しを所属リーグに提出しなければならない。

**⑤最終提示額証明書の発行**

クラブと選手との交渉が決裂し、契約を更新しないことが確定した場合、クラブは、当該選手に対し、交渉の場において最終的に提示した報酬額を明記した「最終提示額証明書」（書式C）をただちに発行し、同書類を所属リーグに提出しなければならない。

**⑥移籍リストへの登録**

- (1) 上記③にて定められた期日までにクラブと選手との交渉が決裂して契約更新しないことが確定した場合、クラブは、ただちに当該選手を移籍リストに登録しなければならない。
- (2) 上記③にて定められた期日までに契約更新の最終合意に至らなかった場合であって、選手に契約更新の意思があるときは、選手とクラブの合意があれば、移籍リストへの登録を延期することができる。
- (3) 移籍リストへの登録申請は「移籍リスト登録申請書」（書式第14号）により行なう。
- (4) 移籍リストに登録された選手は、上記①号に定める通知を行うことなしに、自由に他クラブと契約することができる。
- (5) 移籍リストに登録された選手に関して、当該選手がいずれかのクラブと契約を締結した場合もしくは引退を表明した場合、または当該選手が移籍リストからの抹消を希望した場合、クラブは当該選手を移籍リストから抹消するための申請を「移籍リスト登録申請書」（書式第14号）により行なうものとする。
- (6) (5)にかかわらず、選手が移籍リストに掲載された日より8か月が経過した場合、当該選手は移籍リストから自動的に抹消されるものとする。

**⑦プロA契約を更新または締結する場合の特記事項**

クラブとの交渉が決裂し移籍リストに登録されたプロA選手は、当該クラブから申し入れがあった場合に限り、当該クラブと再度交渉することができる。その場合、クラブは、当初提示した報酬額（最終提示額）よりも減額した額を提示することができる。

**⑧プロB契約を更新する場合の特記事項**

プロB契約の更新の場合、クラブは、選手と契約条件の交渉中であっても、当該選手が希望すれば、ただちに移籍リストに登録しなければならない。その場合、クラブの当該選手に対する契約締結義務は消滅する。また、当該選手は、移籍リストに登録後もクラブと交渉を続けることができる。その場合、クラブは、当初提示した報酬額よりも減額した額を提示することができる。

**⑨プロC契約を更新する場合の特記事項**

- (1) クラブがプロC契約を締結している選手に対し前年を下回る契約条件の更新通知をした場合、更新手続きは、プロB契約を更新する場合（上記①から⑥までおよび⑧）と同様とする。
- (2) プロC契約3年が経過し、同時に契約期間も満了する場合の手続きは、次の通りとする。
  - イ. プロA契約に更新する場合の手続きは、プロA契約を更新する場合（上記①から⑦まで）と同様とする。
  - ロ. プロB契約に更新する場合の手続きは、プロB契約を更新する場合（上記①から⑥までおよび⑧）と同様とする。

移籍リストの運用は残す。

**1-9 契約更新しない場合の手続き**

**①クラブから選手への通知**

クラブは選手に対し、契約期間が満了する年の前年の11月30日までに、契約更新しない旨を「契約更新に関する通知書」(書式A)により通知しなければならない。

**②移籍リストへの登録**

クラブは選手への通知後、ただちに、当該選手を移籍リストに登録しなければならない。

**1-10 年度途中の契約変更 (図-2、図-3)**

プロC選手が年度途中でプロA契約締結条件を満たし、クラブがプロA契約またはプロB契約を締結しようとする場合の手続きは次のとおりとする。また、プロB契約からプロA契約への変更は、クラブと選手の合意があれば、随時行なうことができる。ただし、1-6③「25名枠」の例外に当てはまらない場合、当該選手は「25名枠」の対象とする。

**①クラブから選手への契約変更通知**

- (1) プロC選手が年度途中でプロA契約締結条件を満たした場合、クラブは選手に対し、条件を満たした試合日の翌日から3日以内に、プロA契約またはプロB契約への変更およびその契約条件を「契約変更に関する通知書」(書式E)により通知しなければならない。
- (2) (1)の契約条件は、プロC契約時の契約条件を下回ってはならない。

**②クラブと選手の契約交渉**

- (1) 選手が上記変更通知を受け取った日の翌日から、原則として7日までをクラブと選手との交渉期間とする。
- (2) クラブがプロA契約締結の意思を示した場合、選手は同クラブにおいて契約することを原則とする。
- (3) クラブがプロB契約を提示した場合、選手は自らの選択において、現プロC契約の残存期間までの継続を請求することができる。
- (4) クラブがプロA契約を提示し、交渉が決裂した場合、現プロC契約が期間満了まで継続される。

**③移籍リストへの登録**

クラブがプロA契約を提示しなかった場合に限り、選手は移籍リストへの登録を請求することができ、契約期間中においても、移籍することが可能となる。ただしその場合の移籍金は、3.0万円×在籍年数を上限とする。

**④契約日**

クラブと選手が新契約に合意した場合、その契約日は、当該選手がプロA契約締結条件を満たした試合日の翌日とする。

**1-9 契約更新しない場合の手続き ([別紙]図-2および図-3 参照)**

**①クラブから選手への通知**

クラブは、契約を更新しない場合は、選手に対し、1-8②に定める期日までにその旨を「契約更新に関する通知書」(書式A)により通知しなければならない。

**②移籍リストへの登録**

クラブは選手への通知後、ただちに、当該選手を移籍リストに登録しなければならない。

**1-10 プロC選手の契約変更**

プロC選手が契約期間満了前にプロA契約締結条件を満たした場合の手続きは、次のとおりとする。また、プロB契約からプロA契約への変更は、クラブと選手の合意があれば随時行なうことができる。ただし、1-6③にいう「25名枠」の例外に当てはまらない場合、当該選手は「25名枠」の対象とする。

**①クラブから選手への契約変更通知**

- (1) プロC選手が契約期間満了前にプロA契約締結条件を満たした場合、クラブは、選手に対し、条件を満たした試合日の翌日から3日以内に、プロA契約またはプロB契約への変更およびその契約条件を「契約変更に関する通知書」(書式E)により通知しなければならない。
- (2) (1)にいう契約の条件は、プロC契約時の契約条件を下回ってはならない。

**②クラブと選手の契約交渉**

- (1) プロC選手が上記①にいう変更通知を受け取った日の翌日から起算して7日間をクラブと当該選手との交渉期間とする。
- (2) プロC選手およびクラブは、契約形態をプロC契約からプロA契約またはプロB契約に切り替えるものとする。

**③契約日**

クラブとプロC選手が新たな契約に合意した場合、その契約の効力発生日は、当該選手がプロA契約締結条件を満たした試合日の翌日であるものとする。

図-2 <年度途中でプロC契約からプロA契約への契約変更を通知する場合>

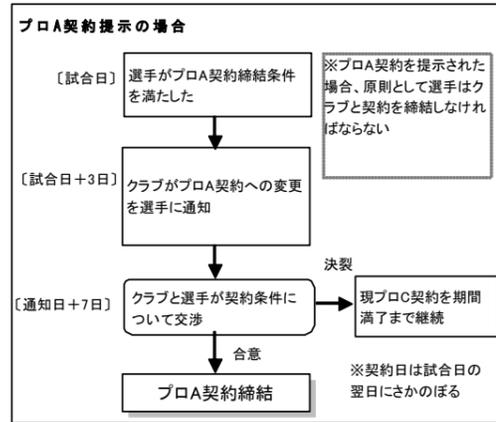
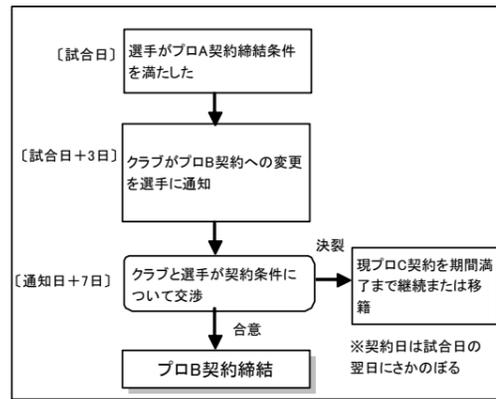


図-3 <年度途中でプロC契約からプロB契約への契約変更を通知する場合>



※図は削除

1-11 契約変更月の報酬の計算方法

① 契約変更月の基本報酬の考え方 (図-4)

契約変更月の基本報酬は、契約日を起点に新・旧の報酬をそれぞれ日割り計算する。(当月暦日数による)

② 新・旧報酬の差額の支払い

契約の合意が、当月の報酬の支払いに間に合わなかった場合は、翌月にその差額を支払う。

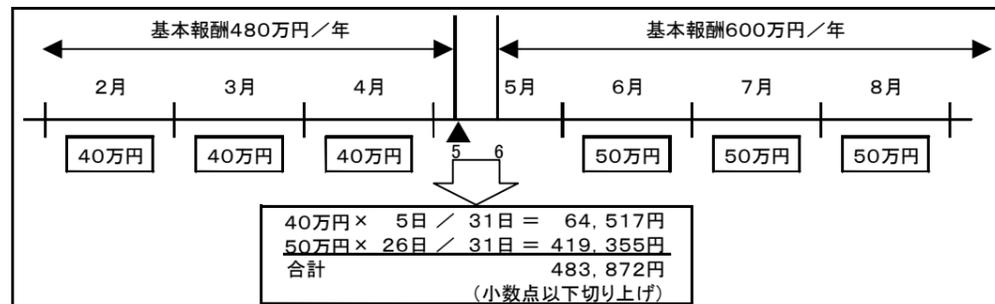


図-4 <契約変更月の基本報酬計算方法 (試合日が5月5日の場合) >

1-11 契約変更月の報酬の計算方法 ([別紙]図-4 参照)

① 契約変更月の基本報酬の考え方 (図-4)

契約変更月の基本報酬は、契約日を起点に新・旧の報酬をそれぞれ日割り計算する (当月暦日数による)。

② 新・旧報酬の差額の支払い

契約の合意が、当月の報酬の支払いに間に合わなかった場合は、翌月にその差額を支払う。

図削除  
⇒ 「別紙」へ移動

1-12 プロC契約3年経過後にプロA契約またはプロB契約に変更する場合（図-5、図-6）

①クラブから選手への通知

クラブは選手に対し、プロA契約またはプロB契約を締結する意思およびその契約条件を、「契約更新に関する通知書」（書式A）（書式E）ではない）により、以下の期日までに通知しなければならない。

- イ. 1月31日に満了する契約を締結した場合は、その前年の11月30日まで
- ロ. 1月31日以外の日を満了日とする契約を締結した場合は、契約満了日の2ヶ月前まで

②クラブの専属交渉期間

(1) クラブが選手に対し、プロA契約締結の意思を示した場合、以下の期日までをクラブの専属交渉期間とする。

- イ. 1月31日に満了する契約を締結した場合は、その前年の12月31日まで
- ロ. 1月31日以外の日を満了日とする契約を締結した場合は、契約満了日の1ヶ月前まで

(2) クラブの専属交渉期間中は、選手は他のクラブと移籍に関する交渉を行ってはならず、他クラブも当該選手と移籍の交渉その他一切の接触をしてはならない。

※ クラブが選手に対し、プロB契約の提示をした場合、クラブの専属交渉期間は設定されない。

③選手からクラブへの諾否の通知

(1) 選手はクラブに対し、以下の期日までに諾否を通知しなければならない。

- イ. 1月31日に満了する契約を締結した場合は、その前年の12月31日まで
- ロ. 1月31日以外の日を満了日とする契約を締結した場合は、契約満了日の1ヶ月前まで

(2) クラブがプロA契約締結の意思を示した場合、選手は同クラブにおいて契約することを原則とする。

④最終提示額証明書の発行

クラブは選手との契約を更新しないことが確定したとき、当該選手に対し、ただちに、最終的に提示した報酬額を明記した「最終提示額証明書」（書式C）を発行し、同書類をJリーグに提出しなければならない。

⑤移籍リストへの登録

(1) クラブがプロA契約を提示したが、交渉が決裂した場合、クラブは、専属交渉期間中であっても、ただちに当該選手の移籍リストへの登録申請を行わなければならない。また、移籍リストに登録された選手は、現所属クラブから申し入れがあった場合に限り、当該クラブと再度交渉することができる。その場合、クラブは当初提示した報酬額を減額することができる。

(2) 専属交渉期間内に契約条件の最終合意に至らなかったが、選手に契約締結の意思がある場合、選手の希望により移籍リストへの登録を延期することができる。

(3) クラブがプロB契約の提示をした場合、クラブは選手の希望があれば、当該選手の移籍リストへの登録申請を行わなければならない。その場合、クラブの当該選手に対する契約締結義務は消失する。また、当該選手は移籍リストに登録されたとしても、クラブと交渉を続けることができるが、クラブは当初提示した報酬額を減額することができる。

1-12

<削除>

図-5 <プロC契約3年経過後にプロA契約への契約変更を通知する場合>

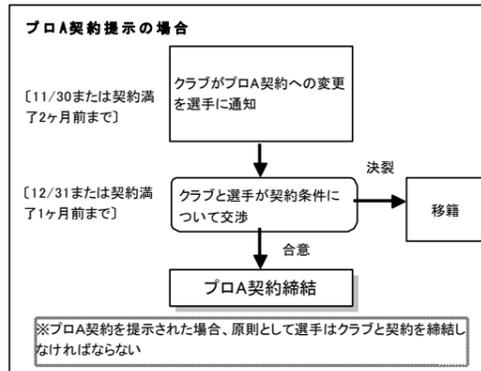
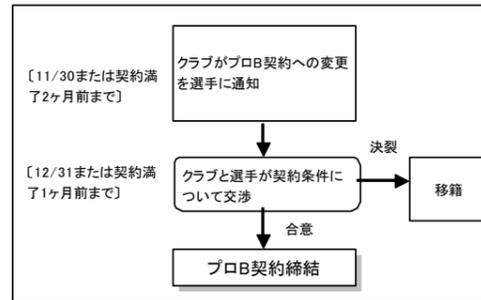


図-6 <プロC契約3年経過後にプロB契約への契約変更を通知する場合>



※図は削除

**1-13 プロB契約からプロA契約に変更する場合の手続き**

プロB契約からプロA契約に変更する場合の手続きは、プロA契約を更新する場合（1-8①～⑦）と同様とする

**1-14 プロA契約からプロB契約に変更する場合の手続き**

プロA契約からプロB契約に変更する場合の手続きは、プロB契約を更新する場合（1-8①～⑥、⑧）と同様とする。

**1-13 プロB契約からプロA契約に変更する場合の手続き**

プロB契約からプロA契約に変更する場合の手続きは、プロA契約を更新する場合（1-8①から⑦まで）と同様とする。

**1-14 プロA契約からプロB契約に変更する場合の手続き**

プロA契約からプロB契約に変更する場合の手続きは、プロB契約を更新する場合（1-8①から⑥までおよび⑧）と同様とする。

**2. 登録**

**2-1 JFAへの登録**

**① 登録**

クラブは、JFA、地域サッカー協会および都道府県サッカー協会が主催する試合ならびにJリーグを含むJFAの下に置かれる各種連盟が主催する試合に参加するために、チームおよびその所属選手をJFAへ登録しなければならない。

**②加盟チームの種別**

JFAに加盟登録するチームは、以下のとおり種別される。

- (1) 第1種：年齢を制限しない選手により構成されるチーム
- (2) 第2種：18歳未満の選手により構成されるチーム。ただし、高等学校在学中の選手には、この年齢制限を適用しない。
- (3) 第3種：15歳未満の選手により構成されるチーム。ただし、中学校在学中の選手には、この年齢制限を適用しない。

**2. 登録**

**2-1 本協会への登録**

**① 登録**

クラブは、本協会、地域サッカー協会および都道府県サッカー協会が主催する試合ならびにJリーグを含む本協会の下に置かれる各種連盟が主催する試合に参加するために、チームおよびその所属選手を本協会へ登録しなければならない。

**②加盟チームの種別**

本協会に加盟登録するチームは、以下のとおり種別される。

- (1) 第1種：年齢を制限しない選手により構成されるチーム
- (2) 第2種：18歳未満の選手により構成されるチーム。ただし、高等学校在学中の選手には、この年齢制限を適用しない。
- (3) 第3種：15歳未満の選手により構成されるチーム。ただし、中学校在学中の選手には、この年齢制限を適用しない。

- (4) 第4種：12歳未満の選手により構成されるチーム。ただし、小学校在学中の選手には、この年齢制限を適用しない。
- (5) 女子：女子の選手により構成されるチーム
- (6) シニア：40歳以上の選手により構成されるチーム

上記に定める年齢は、当該年度開始日の前日（3月31日）現在の年齢とする。

**③選手の登録区分**

- (1) JFAに登録する選手は、アマチュアとプロに区分される。
- (2) 年度の初めにプロの選手として登録する場合、次の書類をJFAに提出し、2-1④の申請料を支払う。
  - イ. 「選手登録区分申請書」（書式第1号）
  - ロ. 選手契約書の写し（JクラブはJリーグに提出する。JFAはJリーグから受け取り、保管する。）
- (3) 年度の途中にアマチュアからプロに変更する場合、次の書類をJFAに提出し、2-1④の申請料を支払う。
  - イ. 「選手登録区分申請書」（書式第1号）
  - ロ. 選手契約書の写し（JクラブはJリーグに提出する。JFAはJリーグから受け取り、保管する。）
- (4) プロからアマチュアに変更する場合、「選手登録区分申請書」（書式第1号）をJFAに提出し、2-1④の申請料を支払う。

**④選手登録区分申請料**

選手は、次に定める選手登録区分申請料をJFAに支払わなければならない。

- (1) プロ選手：10,000円/年度
- (2) アマチュア選手⇒プロ選手：10,000円/回
- (3) プロ選手⇒アマチュア選手：5,000円/回

**⑤登録年度**

- (1) J1、J2、JFLの第1種チームおよび所属選手：2月1日より翌年1月31日までの1年間
- (2) 上記(1)以外のチームおよび所属選手：4月1日より翌年3月31日までの1年間

**⑥J1、J2、JFLの第1種チームおよび選手の登録手続き**

- (1) JFAは、次年度登録用の「チーム確認カード」を、12月末までにクラブに送付する。
- (2) クラブは、JFAが指定した申請期日までに、チームの「継続登録申請」および「追加登録申請」を行う。
- (3) クラブは都道府県サッカー協会が定める登録料（分担金）を同協会に支払う。
- (4) 都道府県サッカー協会は上記申請に不備がないことを確認し、承認する。
- (5) プロ選手を登録する場合は、「2-1 JFAへの登録③(2)」による。

**⑦その他のチームおよび選手の登録手続き**

- (1) クラブは毎年所属都道府県サッカー協会の指定する期日までに、保有するチームの「継続登録申請」を行う。
- (2) クラブは都道府県サッカー協会が定める登録料（分担金）を同協会に支払う。
- (3) 都道府県サッカー協会は上記申請に不備がないことを確認し、承認する。
- (4) プロ選手を登録する場合は、「2-1 JFAへの登録③(2)」による。
- (5) JFA主催の競技会に参加するためには、上記(1)から(3)にかかわらず、その競技会が開始される期日までに登録手続きを完了し、JFAが承認していなければならない。

**⑧外国籍選手の登録**

- (1) 海外のサッカー協会に登録している外国籍選手を登録する場合は、5-1 海外からの国際移籍の手続き ② に基づき手続きを行なう。
- (2) 海外のサッカー協会に登録していない外国籍選手を日本で初めて登録する場合、クラブは次の書類をJFAに提出しなければならない。
  - イ. 「外国籍選手登録申請書（外国で登録していなかった選手）」（書式第7号）
  - ロ. 自治体が発行する「外国人登録証明書」の写し

**⑨JFA基本規程第69条に該当する選手の登録**

- (4) 第4種：12歳未満の選手により構成されるチーム。ただし、小学校在学中の選手には、この年齢制限を適用しない。
- (5) 女子：女子の選手により構成されるチーム
- (6) シニア：40歳以上の選手により構成されるチーム

上記に定める年齢は、当該年度開始日の前日（3月31日）現在の年齢とする。

**③選手の登録区分**

- (1) 本協会に登録する選手は、アマチュアとプロに区分される。
- (2) 年度の初めにプロの選手として登録する場合、次の書類を本協会に提出し、2-1④の申請料を支払う。
  - イ. 「選手登録区分申請書」（書式第1号）
  - ロ. 選手契約書の写し（JクラブはJリーグに提出する。本協会はJリーグからこれを受け取り、保管する。）
- (3) 年度の途中にアマチュアからプロに変更する場合、次の書類を本協会に提出し、2-1④の申請料を支払う。
  - イ. 「選手登録区分申請書」（書式第1号）
  - ロ. 選手契約書の写し（JクラブはJリーグに提出する。本協会はJリーグからこれを受け取り、保管する。）
- (4) プロからアマチュアに変更する場合、「選手登録区分申請書」（書式第1号）を本協会に提出し、2-1④の申請料を支払う。

**④選手登録区分申請料**

選手は、次に定める選手登録区分申請料を本協会に支払わなければならない。

- (1) プロ選手：各年度あたり10,000円
- (2) アマチュア選手からプロ選手への区分変更：1回あたり10,000円
- (3) プロ選手からアマチュア選手への区分変更：1回あたり5,000円

**⑤登録年度（登録有効期間）**

- (1) JリーグまたはJFLの第1種チームおよび所属選手：2月1日から翌年1月31日までの1年間
- (2) 上記(1)以外のチームおよび所属選手：4月1日から翌年3月31日までの1年間

**⑥J1、J2およびJFLの第1種チームおよび選手の登録手続き**

- (1) 本協会は、次年度登録用の「チーム確認カード」を、12月末までにクラブに送付する。
- (2) クラブは、本協会が指定した申請期日までに、チームの「継続登録申請」および「追加登録申請」を行う。
- (3) クラブは、都道府県サッカー協会が定める登録料（分担金）を同協会に支払う。
- (4) 都道府県サッカー協会は、上記申請に不備がないことを確認し、承認する。
- (5) プロ選手を登録する場合は、2-1（本協会への登録）③(2)に定めるところによる。

**⑦その他のチームおよび選手の登録手続き**

- (1) クラブは、毎年所属都道府県サッカー協会の指定する期日までに、保有するチームの「継続登録申請」を行う。
- (2) クラブは、都道府県サッカー協会が定める登録料（分担金）を同協会に支払う。
- (3) 都道府県サッカー協会は、上記申請に不備がないことを確認し、承認する。
- (4) プロ選手を登録する場合は、2-1（本協会への登録）③(2)に定めるところによる。
- (5) 本協会主催の競技会に参加するためには、上記(1)から(3)までにかかわらず、その競技会が定める期日までに登録手続きを完了し、本協会が承認していなければならない。

**⑧外国籍選手の登録**

- (1) 海外のサッカー協会に登録している外国籍選手を登録する場合は、5-1 (海外からの国際移籍の手続き) ② に基づき手続きを行う。
- (2) 海外のサッカー協会に登録していない外国籍選手を日本で初めて登録する場合、クラブは次の書類を本協会に提出しなければならない。
  - イ. 「外国籍選手登録申請書（外国で登録していなかった選手）」（書式第7号）
  - ロ. 自治体が発行する「外国人登録証明書」の写し

**⑨本協会基本規程第69条に該当する選手の登録**

- (1) 日本で生まれ、次のいずれかに該当する選手は、日本国籍を有しない場合でも、外国籍選手とはみなさない。ただし、1チームにつき1名に限る。
- イ. 学校教育法第1条に定める学校において、教育基本法第4条に定める義務教育中の者または義務教育を終了した者
  - ロ. 学校教育法第1条に定める高等学校または大学を卒業した者
- (2) 外国籍扱いしない選手を登録する場合、クラブは、次の書類をJFAに提出し、理事会の承認を得なければならない。
- イ. 「外国籍選手登録申請書（第69条に該当する選手）」（書式第8号）
  - ロ. 自治体が発行する「外国人登録証明書」の写し

- (1) 日本で生まれ、次のいずれかに該当する選手は、日本国籍を有しない場合でも、外国籍選手とはみなさない。ただし、1チームにつき1名に限る。
- イ. 学校教育法第1条に定める学校において、教育基本法第4条に定める義務教育中の者または義務教育を終了した者
  - ロ. 学校教育法第1条に定める高等学校または大学を卒業した者
- (2) 外国籍扱いしない選手を登録する場合、クラブは、次の書類を本協会に提出し、理事会の承認を得なければならない。
- イ. 「外国籍選手登録申請書（第69条に該当する選手）」（書式第8号）
  - ロ. 自治体が発行する「外国人登録証明書」の写し

**⑩シーズン**

- (1) シーズンは、各チームが属するリーグの最初の公式試合の日から最終の公式試合の日までの期間とする。
- (2) JリーグまたはJFLの第1種チームについては、選手は、1つのシーズンにおいて累計で最大3つのチームに登録されることができる。この期間中、選手は、最大2チームのために公式試合に出場する資格を有する。
- (3) 選手は、同期間中に同じ国内選手権（リーグ戦は除く）あるいはカップ戦において2チーム以上のために公式試合に出場してはならず、個々の競技会規則を遵守しなければならない。

**⑪登録ウインドー**

- (1) JリーグまたはJFLの第1種チームについては、選手は、本協会が定めた年2回の移籍を認める期間（以下「登録ウインドー」という）においてのみ登録されることができる。
- (2) 年2回の登録ウインドーは以下の通り定められ、本協会がFIFAに報告するものとする。
  - イ. 初回の登録ウインドーは、シーズンの終了後に始まり12週間を超えない。
  - ロ. 2回目の登録ウインドーは、シーズン中に設定され、4週間を超えない。
- (3) 上記(1)に関して、選手は、登録ウインドー中に当該チームから本協会に対し有効に登録申請がなされた場合に限り、登録されることができる。
- (4) 本条の規定は、アマチュア選手が主として参加することを意図した大会には適用されない。かかる大会については、関連する大会におけるスポーツ上の秩序を十分配慮したうえで、個別に登録されるべき期間が設定されるものとする。

**⑫登録ウインドーの例外**

- (1) ⑪にかかわらず、登録ウインドーの終了前に契約が終了したプロ選手は、当該登録ウインドー終了後においても登録されることができるものとする（「登録ウインドーの適用例外に関する申請書」（書式H-1）により本協会に申請）。
- (2) ゴールキーパーの選手であり、かつ、当該追加登録を望むチームに既に登録されている他のゴールキーパーの選手について、怪我等により試合に出場することができない特別な事情があり、かつ、所属リーグが認めた場合は、⑪にかかわらず、登録ウインドー外においても登録されることができるものとする（「登録ウインドーの適用例外に関する申請書」（書式H-2）により所属リーグに申請）。
- (3) 本協会への選手登録を伴わない形式により当該チーム（JリーグまたはJFLの第1種チーム）の選手として試合に出場する場合（特別指定選手制度による場合、協会またはリーグの規程により当該チームの育成組織のチームに登録したまま当該チームの試合への出場が認められる場合等）は、⑪の適用対象とはならない。

基本規程と同様に「シーズン」を定義する。  
  
登録回数のルールは、J/JFL のみに適用されることを明記する。

基本規程と同様に「登録ウインドー」を定義する。  
  
登録ウインドー」の適用 J/JFL のみであることを明記する。

登録ウインドーの例外を規定する。

**2-2 リーグへの届出**

チームが所属するリーグへの選手、スタッフ等の届出は、それぞれのリーグが定める手続きに従って行なう。

**3. 国内移籍**

**3-1 移籍の種類**

**2-2 リーグへの届出**

チームが所属するリーグへの選手、スタッフ等の届出は、それぞれのリーグが定める手続きに従って行う。

**3. 国内移籍**

**3-1 移籍の種類**

**①アマチュア選手がアマチュア選手として移籍**

選手が移籍を申し出た場合、移籍元クラブは当該移籍を承諾しなければならず、かつ、名目のいかに問わず、当該移籍に対し対価を請求することができない。

**②プロ選手がアマチュア選手として移籍**

- (1) 選手が移籍を申し出た場合、移籍元クラブは当該選手との契約に基づく根拠がない限り、当該移籍について異議を申し立てることができず、かつ、名目のいかに問わず移籍に対し対価を請求することができない。
- (2) アマチュア選手として移籍した選手は、J.F.Aが移籍を承諾した日から3年間、移籍元クラブの承諾を得ない限り、いかなるクラブともプロ契約ができない。
- (3) 上記(2)の承諾をする場合、移籍元クラブは、移籍先クラブに対し、トレーニング費用または移籍金を請求することができる。

**③アマチュアの選手がプロ選手として移籍**

選手が移籍を申し出た場合、移籍元クラブは当該移籍について、異議を申し立てることができない。ただし、J.F.A規程に定められたトレーニング費用を請求することができる。

**④プロ選手がプロ選手として移籍**

- (1) クラブが他クラブの選手を獲得したい場合、選手と交渉する前に、移籍元クラブの書面による承諾を得なければならない。
- (2) 選手が移籍を希望する場合、他クラブと交渉する前に、移籍元クラブの書面による承諾を得なければならない。
- (3) 移籍リストに登録された選手の移籍に関しては、上記(1)、(2)は適用されない。
- (4) プロ選手契約の期間満了後30か月以内に行われる移籍に関し、移籍元クラブは、移籍先クラブに対しては、「3-2 移籍金」に定められた移籍金を請求することができる。
- (5) プロ選手契約の期間満了前であっても、移籍先クラブと移籍元クラブとが移籍金その他移籍にともなう補償につき合意し、かつ、当該選手も移籍を承諾した場合は、移籍を行うことができる。

**3-2 移籍金**

**①移籍金**

- (1) プロ選手がプロ選手として移籍する場合、移籍元クラブは移籍先クラブに移籍金を請求できる。
- (2) プロ選手が契約期間満了後30ヶ月以内にプロ選手として移籍する場合、移籍元クラブは移籍先クラブに移籍金を請求できる。
- (3) 選手がアマチュアとして移籍する場合、移籍金は発生しない。ただし、プロ選手がアマチュア選手として移籍し、移籍承諾日から3年以内にプロ契約をした場合、移籍元クラブはプロ契約を締結したクラブに移籍金を請求できる。
- (4) アマチュア選手がプロ選手として移籍する場合、移籍元クラブは移籍先クラブに「トレーニング費用」を請求できる。

**②移籍金の上限**

- (1) プロA選手

**① アマチュア選手がアマチュア選手として移籍する場合**

アマチュア選手がアマチュア選手として移籍先クラブへ移籍したい旨を申し出た場合、移籍元クラブは当該移籍を承諾しなければならず、かつ、名目のいかに問わず、当該移籍に対し対価を請求することはできない。

**② プロ選手がアマチュア資格を再取得する場合**

プロ選手がアマチュア資格を再取得するに際しては、いかなる対価も支払われないものとする。当該プロ選手がアマチュアとしての資格を再取得した後30ヶ月以内にプロ選手として再登録された場合には、当該選手の新たなチームは、本規則に従い「トレーニング費用」または「トレーニングコンペンセーション」を支払うものとする。

**③ アマチュア選手がプロ選手として移籍する場合**

アマチュア選手がプロ選手として移籍先クラブへ移籍したい旨を申し出た場合、移籍元クラブは、当該移籍について異議を申し立てることができない。ただし、移籍元クラブは、本規則に定められた「トレーニング費用」を請求することができる。

**④ プロ選手がプロ選手として移籍する場合**

- (1) プロ選手との間でプロ選手としての契約を締結しようとするクラブは、当該プロ選手との交渉に入る前に書面により当該プロ選手がその時点で在籍するクラブに通知しなければならない（「他クラブ在籍プロ選手との契約交渉開始に関する通知」（書式I）により通知。写しを所属リーグに提出）。当該プロ選手は、当該プロ選手のその時点のクラブとの契約が期間満了したか、または期間満了前6ヶ月間に限り、他のクラブと契約を締結することができるものとする。かかる規定に違反したクラブまたは選手に対しては、1-8①に従い制裁が科される。ただし、8（「トレーニングコンペンセーション」）の定めに従い、移籍元クラブは、移籍先クラブに対して、「トレーニングコンペンセーション」を請求することができる。
- (2) 契約期間が満了した選手および移籍リストに登録された選手の移籍に関しては、選手とクラブは、前項に定める通知を行うことなしに自由に交渉し、新たな契約を締結することができる。
- (3) プロ選手契約の期間満了前であっても、移籍先クラブと移籍元クラブとが移籍にともなう補償（移籍補償金）につき合意し、かつ、当該選手も移籍を承諾した場合は、移籍を行うことができる。

**3-2 移籍補償金**

- ① プロ選手がプロ選手として契約の期間満了前に移籍する場合、移籍元クラブは移籍先クラブに移籍補償金を請求することができる。
- ② 移籍補償金の金額は、移籍元クラブと移籍先クラブの合意によって決定する。
- ③ 上記②の合意がなく契約の期間満了前に移籍が行われた場合、違反当事者には以下の通りスポーツ上の制裁が科されることがある。
  - (1) 違反当事者がクラブの場合：最大2つの登録ウインドー期間について、新たな選手の追加登録の禁止。
  - (2) 違反当事者が選手の場合：最大6か月の出場停止処分
- ④ 上記②の合意がなく当該移籍が行われた場合、違反当事者は賠償金を支払わなければならない。当該賠償金の金額は本協会が指定するしかるべき紛争処理機関によって決定されるものとする。
- ⑤ 別段の定めがない限り、移籍補償金または賠償金の金額には一切の税金が含まれる。
- ⑥ 契約が満了した後の移籍については、移籍補償金は発生しない。
- ⑦ 上記④の定めにかかわらず、賠償金の金額は、選手と移籍元クラブの間の契約において予め規定することができる。

基本規程に合わせる

基本規程に合わせる

基本規程に合わせる

「移籍リスト」への掲載のメリットを規定する。

移籍補償金について規定する。

一方的契約解除に関する制裁を定義する。

違約金設定が可能なことを規定する。

- イ. 契約期間中に移籍する場合：クラブ間の合意による  
 ロ. 契約更新時にクラブがプロA契約を提示した場合：「移籍金算出基準」による  
 ハ. 契約更新時にクラブがプロA契約以外を提示した場合：30万円×在籍年数  
 (2) プロB選手：30万円×在籍年数。但し、契約更新時にクラブがプロA契約を提示した場合は「移籍金算出基準」による。  
 (3) プロC選手  
 イ. クラブが現契約条件を下回らない契約更新を提示したが、交渉の結果、クラブが移籍に合意した場合：  
 クラブが当該選手へ提示した平均基本報酬額に「移籍金算出基準」の年齢別係数を乗じた額  

$$\text{平均基本報酬額} = (X + Y) \div 2$$

X: 移籍元クラブが申し出た次期の基本報酬(年額)  
 Y: 移籍先クラブが申し出た次期の基本報酬(年額)

 ロ. クラブが現契約条件を下回る契約更新を提示した場合：30万円×在籍年数  
 ハ. クラブが契約期間中にプロA契約への契約変更を提示したが、交渉が決裂し(現プロC契約を継続することとなり)契約満了前に再びプロA契約への契約変更を提示したが移籍することとなった場合：イと同様  
 ニ. クラブが契約期間中にプロB契約への契約変更を提示したが、現プロC契約を継続することとなり、契約満了後に移籍する場合：30万円×在籍年数  
 (4) 社員選手：30万円×在籍年数  
 (5) アマチュア選手：「トレーニング費用請求基準」による。(プロ選手として移籍する場合に限る)

### 3-3 国内移籍の手続き

#### ①登録抹消申請

- (1) 移籍元クラブは「登録抹消申請」を行う。
- (2) 都道府県サッカー協会は毎週水曜日の12:00までにクラブから申請のあった登録抹消に対して、不備がないことを確認し、承認する。
- (3) JFAが最終確認の上、承認する。

#### ②移籍承諾番号の発行

- (1) 移籍先クラブは移籍元クラブに「移籍承諾番号発行依頼書」(書式D)を提出する。
- (2) 移籍元クラブは「登録抹消申請」の際に発行した「移籍承諾番号」を移籍先クラブに通知する。

#### ③移籍の申請・承認

- (1) 移籍先クラブは「追加登録申請」の際、移籍元クラブから通知された「移籍承諾番号」を入力し、申請を行う。
- (2) クラブは都道府県サッカー協会が定める登録料(分担金)を同協会に支払う。
- (3) 年度の初めにプロ選手が移籍する場合は、「2-1 JFAへの登録③(2)」による。
- (4) 年度途中でプロ選手が移籍する場合、移籍先クラブは、選手契約書の写しをJFAに提出する。(JクラブはJリーグに提出する。JFAはJリーグより受け取り、保管する。)
- (5) プロ選手がプロ選手として移籍する場合、移籍先クラブは、次の書類をJFAに提出する。
  - イ. 「移籍金通知書」(書式第13-1号)
  - ロ. 移籍金に関する契約書等の写し
- (6) プロ選手がアマチュア選手として移籍する場合、「選手登録区分申請書」(書式第1号)をJFAに提出し、2-1④の申請料を支払う。
- (7) 都道府県サッカー協会は毎週水曜日の12:00までにクラブから申請のあった移籍および追加登録に対して、不備がないことを確認し、承認する。JFAは同週の金曜日に登録を承認し、移籍先クラブ、所属リーグへ通知する。

### 3-3 国内移籍の手続き

#### ①登録抹消申請

- (1) 移籍元クラブは「登録抹消申請」を行う。
- (2) 都道府県サッカー協会は、毎週水曜日の12:00までにクラブから申請のあった登録抹消に対して、不備がないことを確認し、承認する。
- (3) 本協会が最終確認の上、承認する。

#### ②移籍承諾番号の発行

- (1) 移籍先クラブは、移籍元クラブに「移籍承諾番号発行依頼書」(書式D)を提出する。
- (2) 移籍元クラブは、「登録抹消申請」の際に発行した「移籍承諾番号」を移籍先クラブに通知する。

#### ③移籍の申請・承認

- (1) 移籍先クラブは、「追加登録申請」の際、移籍元クラブから通知された「移籍承諾番号」を入力し、申請を行う。
- (2) クラブは、都道府県サッカー協会が定める登録料(分担金)を同協会に支払う。
- (3) 年度の初めにプロ選手が移籍する場合は、2-1(本協会への登録)③(2)の定めるところによる。
- (4) 年度途中でプロ選手が移籍する場合、移籍先クラブは、選手契約書の写しを本協会に提出する(JクラブはJリーグに提出する。本協会はJリーグよりこれを受け取り、保管する)。
- (5) プロ選手がプロ選手として移籍する場合、移籍先クラブおよび移籍元クラブは、次の書類を本協会に提出する。
  - イ. 移籍先クラブ
    - ・「移籍補償金通知書」(書式第13-1号) ※当該移籍が原契約の期間満了前か満了後かにかかわらず必ず提出
    - ・移籍に関する合意書の写し(移籍補償金の金額が明示されたもの) ※当該移籍が原契約の満了前の場合に提出
  - ロ. 移籍元クラブ
    - ・原契約の中途解除に関する合意書等の写し ※当該移籍が原契約の期間満了前の場合に提出
- (6) プロ選手がアマチュア選手として移籍する場合、移籍先クラブおよび移籍元クラブは、次の書類を本協会に提出する。
  - イ. 移籍先クラブ
    - ・「選手登録区分申請書」(書式第1号)(2-1④の申請料を支払う)
  - ロ. 移籍元クラブ
    - ・原契約の中途解除に関する合意書等の写し ※当該移籍が原契約の満了前の場合は提出
- (7) 都道府県サッカー協会は毎週水曜日の12:00までにクラブから申請のあった移籍および追加登録に対して、不備がないことを確認し、承認する。本協会は、同週の金曜日に登録を承認し、移籍先クラブおよび所属リーグへ通知する。

**4. 国内の期限付移籍**

**4-1 期限付移籍の手続き**

**①期限付移籍契約書の締結**

期限付移籍を行なう場合、移籍元クラブ、移籍先クラブ、選手の三者は、JFA指定の「期限付移籍契約書」によって契約を締結する。

**②移籍先クラブと選手との選手契約の締結**

- (1) 移籍先クラブと選手は、移籍元クラブと選手が締結している選手契約（以下「原契約」という）の期間内で、新たな選手契約（以下「移籍先クラブ選手契約」という）を締結する。
- (2) 移籍先クラブ選手契約の種類は、原契約と同じ種類とする。
- (3) 移籍先クラブ選手契約の基本報酬は、原則として原契約と同条件とする。

**③移籍手続き**

移籍先クラブへの移籍の手続きは、**3-3 国内移籍の手続き**と同様とするが、移籍先クラブが「移籍先クラブ選手契約」の写しをJFAに提出する際に、「期限付移籍契約書」の写しを添付しなければならない。

**④移籍元クラブへの再移籍**

- (1) 年度終了時に期限付移籍の期間が満了した場合、選手は自動的に移籍元クラブへ再移籍される。
  - (2) 年度途中で期限付移籍の期間が満了した場合、移籍先クラブは登録抹消手続きを行ない、移籍元クラブは追加登録の手続きを行わなければならない。
  - (3) 期間を延長する場合や完全移籍に変更する場合は、期間満了前に移籍元クラブ、移籍先クラブ、選手の三者が合意し、署名、捺印した書面にてJFAへその旨を通知する。
- ※ なお、海外の期限付移籍についてはこの限りではない。

**4-2 期限付移籍の移籍金**

**①期限付移籍の移籍金**

期限付移籍を行なう場合の移籍金は、移籍先クラブ、移籍元クラブの合意によって決定する。

**②期限付移籍期間満了後の完全移籍**

期限付移籍の期間満了後、選手が希望し、移籍先クラブに完全に移籍する場合、移籍元クラブが請求できる移籍金の上限は、次のとおりとする。

- (1) 移籍元クラブが原契約更新を希望する場合：選手と移籍先クラブとが合意した基本報酬年額に年齢係数の2分の1を乗じた額（ただし、プロC選手の場合はプロC契約の移籍ルールに従う）
- (2) 移籍元クラブが原契約更新を希望しない場合：移籍金は発生しない

**4-3 原契約の更新手続き**

移籍期間中に原契約の更新手続きを行なう時期が到来した場合、移籍元クラブが必要な更新手続きを行なう。ただし、**4-2②**の完全移籍が既に合意されている場合は、移籍先クラブが行なう。

**4. 国内の期限付移籍**

**4-1 期限付移籍の手続き**

**①期限付移籍契約書の締結**

期限付移籍を行う場合、移籍元クラブ、移籍先クラブ、選手の三者は、本協会所定の「期限付移籍契約書」によって契約を締結する。

**②移籍先クラブと選手との選手契約の締結**

- (1) 移籍先クラブと選手は、移籍元クラブと選手が締結している選手契約（以下「原契約」という）の期間内で、新たな選手契約（以下「移籍先クラブ選手契約」という）を締結する。
- (2) 移籍先クラブ選手契約の種類は、原契約と同じ種類とする。
- (3) 移籍先クラブ選手契約の基本報酬は、原則として原契約と同条件とする。
- (4) 期限付移籍の最短期間は、本協会基本規程に定める2つの登録ウインドー間の期間とする。

**③移籍手続き**

移籍先クラブへの移籍の手続きは、**3-3 (国内移籍の手続き)**と同様とするが、移籍先クラブが「移籍先クラブ選手契約」の写しを本協会に提出する際に、「期限付移籍契約書」の写しを添付しなければならない。

**④移籍元クラブへの再移籍**

- (1) 年度終了時に期限付移籍の期間が満了した場合、選手は自動的に移籍元クラブへ再移籍される。
- (2) 年度途中で期限付移籍の期間が満了した場合、移籍先クラブは登録抹消手続きを行い、移籍元クラブは追加登録の手続きを行わなければならない。
- (3) 期間を延長する場合や完全移籍に変更する場合は、期間満了前に移籍元クラブ、移籍先クラブ、選手の三者が合意し、署名、捺印した書面にて本協会へその旨を通知する。
- (4) 海外の期限付移籍については、上記(1)から(3)までの定める限りではない。

**4-2 期限付移籍に関する補償金（期限付移籍補償金）**

**① 期限付移籍補償金**

選手の期限付移籍に関しては、移籍元クラブは、移籍先クラブに対し補償金（以下「期限付移籍補償金」という）を請求することができる。期限付移籍補償金の金額は、移籍先クラブと移籍元クラブの合意によって決定される。移籍先クラブは「期限付移籍補償金通知書」（書式第13-3号）を本協会に提出するものとする。

**② 期限付移籍の期間満了後における移籍先クラブへの完全移籍の場合**

期限付移籍期間満了後において選手が移籍先クラブに完全に移籍する場合、当該移籍が移籍元クラブと選手との間の契約期間満了前であれば、3-2（移籍補償金）の定めに従い移籍補償金が発生する。移籍元クラブと選手との契約期間が満了している場合には、移籍補償金は発生しない。

**4-3 原契約の更新手続き**

移籍期間中に原契約の更新手続きを行う時期が到来した場合、移籍元クラブが必要な更新手続きを行う。ただし、**4-2②**という完全移籍が既に合意されている場合は、移籍先クラブが行う。

期限付移籍の最短期間を規定する（基本規程同様）。

**4-4 期限付移籍中の契約変更手続き**

- (1) 移籍期間中にプロC選手がプロA契約締結条件を満たした場合、**1-10 年度途中の契約変更**に基づき、移籍元クラブがその手続きを行なう。
- (2) 上記(1)により、原契約が変更された場合、移籍先クラブにおいても、移籍先クラブ選手契約を同様に変更する。

**5. 海外移籍**

**5-1 海外からの国際移籍の手続き**

**①国際移籍証明書の発行**

- (1) 移籍先クラブ（国内）は、海外のサッカー協会に「国際移籍証明書」を発行させるために、JFAに次の書類を提出し、申請料（10,500円）を支払う。
  - イ. 「国際移籍証明書発行申請書」（書式第9号）
  - ロ. 選手の経歴書
  - ハ. 選手契約書の写し（プロのみ）
- (2) JFAは、海外のサッカー協会に「国際移籍証明書」発行依頼を打電する。
- (3) 海外のサッカー協会は、当該移籍について移籍元クラブ（海外）へ確認後「国際移籍証明書」を発行しJFAへ送付する。

**②移籍の申請・承認**

- (1) 移籍先クラブは、「継続登録申請」または「追加登録申請」を行ない、次の書類を都道府県サッカー協会に提出する。
  - イ. 「国際移籍選手登録申請書」（書式第6号）
  - ロ. 「国際移籍証明書」の写し
  - ハ. パスポートの写し
  - ニ. 自治体が発行する「外国人登録証明書」の写し（日本人の場合は「住民票」の写し）
- (2) クラブは都道府県サッカー協会が定める登録料（分担金）を同協会に支払う。
- (3) 都道府県サッカー協会は上記(1)の書類を受け付けた後、全ての書類を移籍先クラブに渡し、（場合によっては、都道府県サッカー協会からJFAに直接送られる）申請を確認し、承認する。
- (4) 移籍先クラブは、上記(3)で渡された書類をJFAに提出し、プロ選手として登録する場合は、「2-1 JFAへの登録③(2)」による。
- (5) 選手登録区分をプロからアマチュアに変更して登録する場合、移籍先クラブは、上記(3)で渡された書類に次の書類を添えてJFAに提出し、2-1④の申請料を支払う。
  - イ. 「選手登録区分申請書」（書式第1号）
- (6) JFAは海外のサッカー協会が発行した「国際移籍証明書」およびクラブからの書類が全て届いた後、承認を行なう。

**5-2 海外への国際移籍の手続き**

**①国際移籍証明書の発行**

- (1) 移籍元クラブ（国内クラブ）は、国際移籍証明書発行のために、次の書類をJFAに提出し、申請料（5,250円）を支払う。
  - イ. 「国際移籍証明書発行申請書」（書式第9号）
  - ロ. 都道府県サッカー協会承認済の「登録抹消申請」の写し
- (2) JFAは、海外のサッカー協会の要請があった後、「国際移籍証明書」を発行し、海外のサッカー協会へ送付し、その写しを移籍元クラブへ送付する。

**4-4 期限付移籍中の契約変更手続き**

- (1) 移籍期間中にプロC選手がプロA契約締結条件を満たした場合、**1-10\_(年度途中の契約変更)**に基づき、移籍元クラブがその手続きを行う。
- (2) 上記(1)により、原契約が変更された場合、移籍先クラブにおいても、移籍先クラブ選手契約を同様に変更する。

**5. 海外移籍**

**5-1 海外からの国際移籍の手続き**

**①国際移籍証明書の発行**

- (1) 移籍先クラブ（国内）は、海外のサッカー協会に「国際移籍証明書」を発行させるために、本協会に次の書類を提出し、申請料（10,500円）を支払う。
  - イ. 「国際移籍証明書発行申請書」（書式第9号）
  - ロ. 選手の経歴書
  - ハ. 選手契約書の写し（プロのみ）
- (2) 本協会は、海外のサッカー協会に「国際移籍証明書」発行依頼を打電する。
- (3) 海外のサッカー協会は、当該移籍について移籍元クラブ（海外）へ確認後「国際移籍証明書」を発行し本協会へ送付する。

**②移籍の申請・承認**

- (1) 移籍先クラブは、「継続登録申請」または「追加登録申請」を行い、次の書類を都道府県サッカー協会に提出する。
  - イ. 「国際移籍選手登録申請書」（書式第6号）
  - ロ. 「国際移籍証明書」の写し
  - ハ. パスポートの写し
  - ニ. 自治体が発行する「外国人登録証明書」の写し（日本人の場合は「住民票」の写し）
- (2) クラブは、都道府県サッカー協会が定める登録料（分担金）を同協会に支払う。
- (3) 都道府県サッカー協会は、上記(1)の書類を受け付けた後、全ての書類を移籍先クラブに渡し、（場合によっては、都道府県サッカー協会から本協会に直接送られる）申請を確認し、承認する。
- (4) 移籍先クラブは、上記(3)で渡された書類を本協会に提出し、プロ選手として登録する場合は、2-1（本協会への登録）③(2)による。
- (5) 選手登録区分をプロからアマチュアに変更して登録する場合、移籍先クラブは、上記(3)で渡された書類に次の書類を添えて本協会に提出し、2-1④の申請料を支払う。
  - イ. 「選手登録区分申請書」（書式第1号）
- (6) 本協会は、海外のサッカー協会が発行した「国際移籍証明書」およびクラブからの書類が全て届いた後、承認を行う。

**5-2 海外への国際移籍の手続き**

**①国際移籍証明書の発行**

- (1) 移籍元クラブ（国内クラブ）は、国際移籍証明書発行のために、次の書類を本協会に提出し、申請料（5,250円）を支払う。
  - イ. 「国際移籍証明書発行申請書」（書式第9号）
  - ロ. 都道府県サッカー協会承認済の「登録抹消申請」の写し
- (2) 本協会は、海外のサッカー協会の要請があった後、「国際移籍証明書」を発行し、海外のサッカー協会へ送付し、その写しを移籍元クラブへ送付する。

②契約途中で海外移籍する場合の補償金の通知

契約途中で海外移籍した場合、移籍元クラブ（国内クラブ）は「契約途中での海外移籍に関する補償金通知書」（書式第13-2号）をJFAに提出する。

6. 移籍金算出基準

6-1 移籍金の算出方法

移籍金の金額は、当該選手の平均基本報酬額に年齢別係数を乗じた額とする。

① 平均基本報酬額

平均基本報酬額は次の計算式により算出する。

$$\text{平均基本報酬額} = (X + Y + Z) \div 3$$

X: 移籍元クラブにおける現在の基本報酬（年額）  
Y: 移籍元クラブが申し出た次期の基本報酬（年額）  
Z: 移籍先クラブが申し出た次期の基本報酬（年額）

②年齢別係数

移籍先クラブ 移籍元クラブ	J1			J2			JFL		
	J1	J2	JFL	J1	J2	JFL	J1	J2	JFL
満16歳以上 満22歳未満		10.0		2.5	9.0		2.5	9.0	
満22歳以上 満25歳未満		8.0		2.0	4.0		2.0	4.0	
満25歳以上 満28歳未満		6.0		1.5	3.0		1.5	3.0	
満28歳以上 満30歳未満		3.0		0	1.5		0	1.5	
満30歳以上		0		0	0		0	0	

※表中の年齢はJFAが移籍を承認した日の年齢（注：年度当初における移籍に関するJFAの承認日は2月1日となる。）

※年齢別係数が「0」となる年齢は、2004年12月1日より「満30歳以上」へ変更となり、以後、3年間据え置いた後、2007年度以降の対応については別途決定する。

※地域リーグ、都道府県リーグのクラブは、表中のJFLに等しい扱いとする。

③リーグ昇降格によりクラブがリーグを移動する場合の係数の適用

- クラブが上位のリーグへ昇格する場合、当該クラブの所属リーグは、昇格が決定した日から上位のリーグの所属として取り扱う。（例：J2のクラブがJ1に昇格する場合、昇格が決定した日からJ1のクラブとする）
- クラブが下位のリーグへ降格する場合、当該クラブの所属リーグは、降格が決定した日から下位のリーグの所属として取り扱う。（例：J1のクラブがJ2に降格する場合、降格が決定した日からJ2のクラブとする）

④移籍元クラブが次期基本報酬について30%を越える減額を申し出た場合の移籍金の取扱い

6-1①の算出方法による金額と、下表による金額のうち、低い方を移籍金の上限とする。

Yの金額がXの金額を下回る割合	移籍金の上限
30%以下	上記の算出方法による
30%超 50%以下	Xの金額
50%超	30万円×在籍年数
0%（「0」提示の場合）	移籍金は発生しない

X: 移籍元クラブにおける現在の基本報酬（年額）  
Y: 移籍元クラブが申し出た次期の基本報酬（年額）

⑤端数の処理

算出された移籍金の金額に千円未満の端数が生じたときは、千円に切り上げる。

6-2 税金の取扱い

②契約途中で海外移籍する場合の補償金の通知

契約途中で海外移籍した場合、移籍元クラブ（国内クラブ）は、「契約途中での海外移籍に関する補償金通知書」（書式第13-2号）を本協会に提出する。

6. 移籍金算出基準

<削除>

移籍元クラブと移籍先クラブとの間で合意された移籍金の金額に関し、別段の定めがない限り、当該金額には一切の税金が含まれる。

**6-3 支払方法**

移籍金は、原則として、移籍に関する契約の成立後30日以内に、移籍先クラブから移籍元クラブに対し、現金をもって一括して支払う。ただし、両クラブが合意したときは、分割払いとすることができる。

**7. トレーニング費用請求基準**

**7-1 適用**

アマチュア選手がプロ選手として移籍する場合にトレーニング費用が適用される。

**7-2 トレーニング費用**

トレーニング費用の上限金額は、選手が在籍したチーム（営利法人、財団法人、社団法人、NPO法人または学校教育法第1条に定める学校およびそれに準じる団体で本協会が認定したもの）における満15才の3月31日翌日の4月1日から満22才の3月31日までの在籍期間1年につき、次に定める金額とする。

	4年まで	5年以降
直前の在籍団体	30万円	15万円
2つ前以前の在籍団体	15万円	15万円

- (1) プロ契約締結以前の在籍団体は上記金額の請求権を持つが、プロ契約締結の拒否権はない。
- (2) 在籍期間が1年に満たない場合は1年とみなして計算する。ただし、在籍期間の合計が1年未満のチームは当該費用の請求権を持たない。
- (3) プロ契約締結以前の在籍団体への連絡はプロ契約を締結したクラブが行なう。

**7-3 トレーニング費用の請求手続き**

トレーニング費用の請求手続きは、JFAが別途定める「トレーニング費用に関する運用基準」によるものとする。

<新規>

**7. 「トレーニング費用」**

**7-1 適用**

アマチュア選手がプロ選手として移籍する場合の「トレーニング費用」の請求は、以下に定めるところによる。

**7-2 「トレーニング費用」**

「トレーニング費用」の上限は、選手が在籍したチームにおける満15歳の3月31日翌日の4月1日から満22歳の3月31日までの在籍期間1年につき、次に定める金額とする。

	4年まで	5年以降
直前の在籍団体	30万円	15万円
2つ前以前の在籍団体	15万円	15万円

- (1) 「トレーニング費用」の請求権を持つチームは、営利法人、財団法人、社団法人、NPO法人または学校教育法第1条に定める学校（これに準じる団体で本協会が認定したものを含む）に限るものとする。
- (2) 在籍期間が1年を超え、超えた期間が1年に満たない場合は、当該超過期間は、本条の関係では、1年とみなして計算する。
- (3) 在籍期間の合計が1年未満のチームは、「トレーニング費用」の請求をすることはできない。
- (4) プロ契約締結前の在籍団体は、上記金額の請求権を有するが、プロ契約締結の拒否権を有するものではない。
- (5) プロ契約締結前の在籍団体への連絡は、プロ契約を締結したクラブが行う。

**7-3 「トレーニング費用」の請求手続き**

「トレーニング費用」の請求手続きは、本協会が別途定める「トレーニング費用に関する運用基準」によるものとする。

**8 「トレーニングコンペンセーション」**

**8-1 適用**

選手がプロ選手として所属したクラブにおいて施されたトレーニングに対して支払われるべき補償金（本規則において「トレーニングコンペンセーション」という）は、以下の通りとする。

**8-2 トレーニング期間**

下記に定める期間を以て「トレーニングコンペンセーション」が発生する期間（以下「トレーニング期間」という）とする。

- ・当該選手の初めてのプロ契約の有効期間開始日を含む年度の2月1日から当該選手の満21歳の1月31日までの期間

基本規程に合わせる。  
※内容の変更なし

「プロ選手として施されたトレーニングへの補償金」としてトレーニングコンペンセーションを定義する。

トレーニングコンペンセーションが発生する期間を規定する。

**8-3 「トレーニングコンペンセーション」の請求権**

下記に定める期日までに移籍が行われる場合に限り、移籍元クラブは、移籍先クラブに対し、「トレーニングコンペンセーション」を請求することができる。

- ・当該選手の満23歳の1月31日の直前の1月1日

**8-4 「トレーニングコンペンセーション」に関する特記事項**

- (1) 本条に定める「トレーニングコンペンセーション」は、プロ選手がプロ選手として移籍した場合に直前のクラブに対してのみ支払われるものとする。
- (2) プロ選手がアマチュアとして移籍する場合、「トレーニングコンペンセーション」は発生しないものとする。ただし、プロ選手がアマチュア選手として移籍し、その移籍が行われた日から30ヵ月以内にプロ契約をした場合、移籍元クラブはプロ契約を締結したクラブに対し、「トレーニングコンペンセーション」を請求することができる。
- (3) 移籍元クラブの第3種チーム、第2種チームおよび第1種チームに（その他のチームに移籍することなしに）連続して登録された選手に関しては、当該第3種チームおよび第2種チームにアマチュアとして登録された期間を「トレーニング期間」に加えて「トレーニングコンペンセーション」を算出し、移籍先クラブに対して請求することができる。
- (4) 特段の合意がない限り、移籍補償金には「トレーニングコンペンセーション」は含まれないものとする。
- (5) プロ選手としての在籍期間が1年を超え、超えた期間が1年に満たない場合は、当該超過期間は、「トレーニングコンペンセーション」の金額の計算との関係では、1年とみなして計算する。ただし、在籍期間の合計が1年未満のクラブの場合は、「トレーニングコンペンセーション」の額は、日割り計算によるものとする。
- (6) 算出された「トレーニングコンペンセーション」の金額に千円未満の端数が生じたときは、千円に切り上げる。
- (7) 別段の定めがない限り、「トレーニングコンペンセーション」の金額には一切の税金が含まれる。
- (8) 「トレーニングコンペンセーション」の請求および支払いに関する手続きは、本協会が別途定める「トレーニングコンペンセーションに関する運用基準」によるものとする。

**8-5 期限付移籍した選手に関する「トレーニングコンペンセーション」**

- (1) 選手が期限付移籍される場合、当該期限付移籍に際しては、「トレーニングコンペンセーション」は発生しないものとする。
- (2) 選手が期限付移籍した期間は、期限付移籍元クラブの「トレーニング期間」に算入されるものとし、期限付移籍の終了後に選手が期限付移籍元クラブから他のクラブ（期限付移籍先クラブを含む）へ移籍する際、期限付移籍元クラブは、期限付移籍した期間を含めた「トレーニング期間」に応じた額の「トレーニングコンペンセーション」を当該他のクラブに対して請求することができる。ただし、期限付移籍元クラブと期限付移籍先クラブとの間に別段の合意がある場合には、期限付移籍先クラブは、「期限付移籍した期間」に応じた額の「トレーニングコンペンセーション」の全部または一部を期限付移籍元クラブより受け取ることができる。

**8-6 「トレーニングコンペンセーション」の金額**（〔別紙〕表-1 参照）

移籍元クラブが移籍先クラブに請求することができる「トレーニングコンペンセーション」の金額は、移籍元クラブにおける契約の種類、および、移籍元クラブが契約更新時に当該選手に提示した金額等により、以下に従うものとする。

**①プロA選手/プロB選手**

- (1) 契約期間満了前の移籍の場合： 「トレーニングコンペンセーション」算出基準（下記8-7に定めるもの）による
- (2) 契約更新時に移籍元クラブがプロA契約を提示した場合： 「トレーニングコンペンセーション」算出基準による。ただし、提示した次期基本報酬が現基本報酬の50%未満の額である場合は、30万円×在籍年数とする。
- (3) 契約更新時に移籍元クラブがプロB契約を提示した場合： 30万円×在籍年数
- (4) 契約更新時にクラブが契約更新の意思がない旨提示した場合： なし

トレーニングコンペンセーションの請求期限を規定する。

一時的なアマチュア登録などによりトレーニングコンペンセーション発生を回避するような行為を防止する。

クラブの育成組織にて連続して育てた選手に関する例外的条項。

「期限付移籍された期間」の請求権が期限付移籍元クラブにあることを明確化する。

トレーニングコンペンセーションの金額について規定する。

②プロC選手

- (1) 契約期間満了前の移籍の場合：「トレーニングコンペンセーション」算出基準による
- (2) 契約更新時に移籍元クラブが次期基本報酬として、現基本報酬を下回らない条件のC契約を提示した場合：「トレーニングコンペンセーション」算出基準による
- (3) 契約更新時に移籍元クラブが次期基本報酬として、現基本報酬を下回る条件のC契約を提示した場合：30万円×在籍年
- (4) 契約更新時に移籍元クラブがプロA契約を提示した場合：「トレーニングコンペンセーション」算出基準による
- (5) 契約更新時に移籍元クラブがプロB契約を提示した場合：30万円×在籍年数
- (6) 契約更新時にクラブが契約更新の意思がない旨提示した場合：なし

③社員選手（社員選手（プロ区分）として本協会に登録している選手をいう）  
30万円×在籍年数

8-7「トレーニングコンペンセーション」算出基準

(1)「トレーニングコンペンセーション」の金額は、原則として以下の表に示された金額（単年）に当該クラブにおける選手の所属年数を乗じた額として算出されるものとする。この関係で、地域リーグまたは都道府県リーグのクラブは、表中のJFLに等しい扱いとする。

	移籍先クラブ	J1	J2	JFL
移籍元クラブ				
	J1、J2、JFL	800万円	400万円	100万円

(2)第3種チームに関する「トレーニングコンペンセーション」（満12歳3月31日翌日の4月1日から満15歳3月31日までの期間に関する「トレーニングコンペンセーション」）は、以下の金額に当該チームにおける所属年数を乗じた額として算出されるものとする。この関係で、地域リーグまたは都道府県リーグのクラブは、表中のJFLに等しい扱いとする。

	移籍先クラブ	J1	J2	JFL
移籍元クラブ				
	J1、J2、JFL	100万円		

8. 支度金

8-1 支度金

クラブは新規採用した選手または移籍した選手に対し、Jリーグ理事会が制定する「支度金支給基準規程」の金額を上限に、支度金を支払うことができる。

8-2 支度金支給基準規程

(単位：万円)

費目\支払対象	独身者	妻帯者(配偶者のみ)	妻帯者(同居扶養家族有)
住居費	80(1DK)	100(2DK)	150(3LDK)
子供用品等	0	0	50
家具等	電化製品	100	
	その他の家具等	100	
自動車		100	
合計	380	400	500

9. 支度金

9-1 支度金

クラブは、新規採用した選手または移籍した選手に対し、Jリーグ理事会が制定する「支度金支給基準規程」の金額を上限として、支度金を支払うことができる。

9-2 支度金支給基準規程

(単位：万円)

費目\支払対象	独身者	妻帯者(配偶者のみ)	妻帯者(同居扶養家族有)
住居費	80(1DK)	100(2DK)	150(3LDK)
子供用品等	0	0	50
家具等	電化製品	100	
	その他の家具等	100	
自動車		100	
合計	380	400	500

**①支給時期**

- (1) 初めてプロ契約選手として、統一契約を締結するとき。
- (2) プロ契約選手として移籍するとき。ただし、支度金に該当する費用が伴う場合のみ。

**②支払対象区分**

- (1) 独身者
- (2) 妻帯者（配偶者のみ）
- (3) 妻帯者でかつ同居の扶養家族がいる場合

**③支度金該当費目**

- (1) 住居費
- (2) 家具等
- (3) 子供用品等
- (4) 自動車

**④その他**

クラブは選手に対し、引越し費用および引越しに関わる交通費、宿泊費の実費を支給することができる。

**①支給時期**

- (1) 初めてプロ契約選手として、統一契約を締結するとき。
- (2) プロ契約選手として移籍するとき。ただし、支度金に該当する費用が伴う場合のみ。

**②支払対象区分**

- (1) 独身者
- (2) 妻帯者（配偶者のみ）
- (3) 妻帯者でかつ同居の扶養家族がいる場合

**③支度金該当費目**

- (1) 住居費
- (2) 家具等
- (3) 子供用品等
- (4) 自動車

**④その他**

クラブは、選手に対し、引越し費用および引越しに関わる交通費、宿泊費の実費を支給することができる。

**10. 改正**

本規則の改正は、本協会の理事会の決議に基づきこれを行う。

**11. 施行**

本規則は、平成21年11月1日より施行する。

[別紙]

表-1 <契約の種類の違いについて> (本規則 1-3、1-4、1-6および8-6 関連)

登録区分	選手種類		人数制限	契約締結条件	報酬	トレーニングコンペンセーション
プロ	統一契約選手	プロA選手 契約書の色 ホワイト	25名以内	規定試合出場またはプロC契約を3年経過	基本報酬 480万円/年以上 ただし、A契約初締結時は700万円/年以下とする 変動報酬 制限なし。	プロA契約提示時: 算出基準による  プロB契約、または、現報酬の50%未満のA契約提示時: 30万円×在籍年数
		プロB選手 契約書の色 ブルー	制限なし	同上	基本報酬 480万円/年以下 変動報酬 制限なし。ただし、出場プレミアムを設定する場合は5万円/試合以下とする	クラブに契約更新する意思がない場合: 無し
		プロC選手 契約書の色 グリーン	制限なし	なし	基本報酬 480万円/年以下 変動報酬 出場プレミアム(5万円/試合以下)・勝利プレミアムのみ可	現基本報酬を下回らないC契約、またはA契約提示時: 算出基準による  現基本報酬を下回るC契約、またはB契約提示時: 30万円×在籍年数  クラブに契約更新する意思がなかった場合: 無し
	その他	統一契約以外の契約を締結した外国籍選手	プロA選手として扱う	なし	—	—
	その他	法人と雇用契約のみを締結した選手(社員選手)	制限なし	—	—	30万円×在籍年数
アマチュア	アマチュア選手	報酬または利益を目的とすることなくプレーする選手	制限なし	—	—	※「トレーニング費用」

図を全て規程本文から外し、[別紙]に集約する。

図-1 <アマチュアから初めてプロ契約を締結する時の流れ> (本規則 1-4 関連)

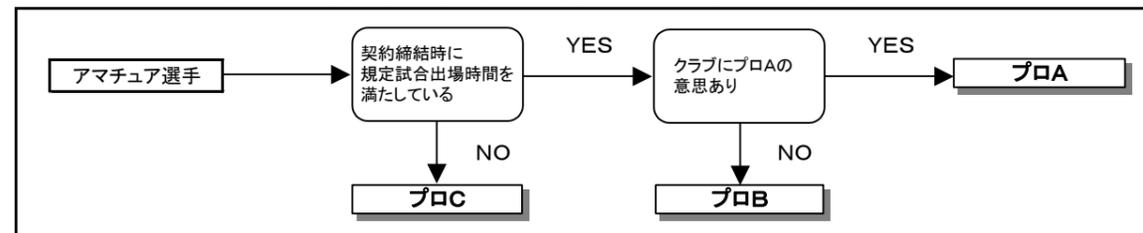


図-2 <契約更新に関する更新通知期限と交渉期間> (本規則 1-8および1-9 関連)

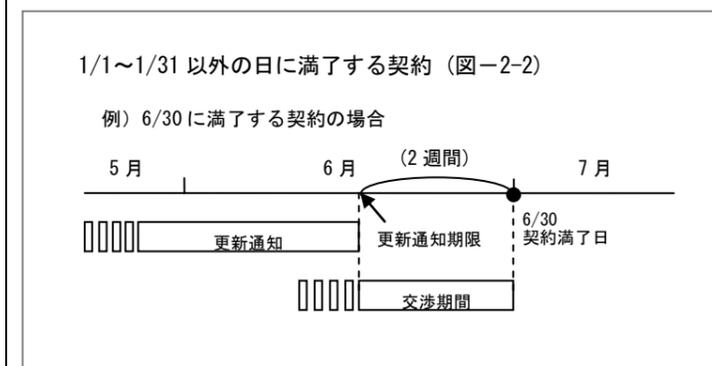
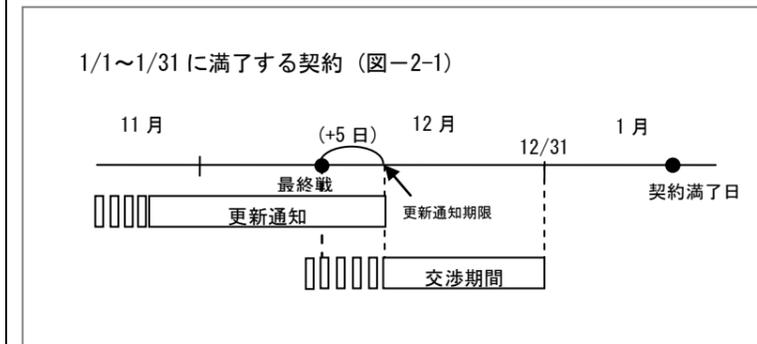
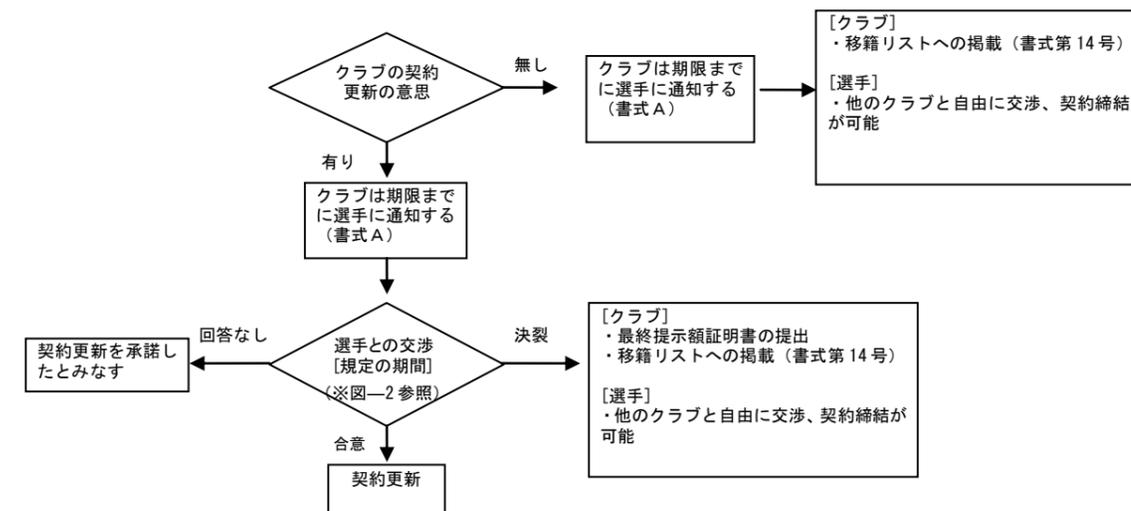


図-3 <契約更新の流れ> (本規則 1-8および1-9 関連)



※上記にかかわらず、契約満了6ヵ月前以降において、クラブへの通知があれば、他クラブは選手と交渉・新たな契約の締結が可能。

※B契約の更新または前年を下回る条件でのC契約更新時は、交渉中であっても選手の希望により移籍リストへ掲載。

図-4 < 契約変更月の基本報酬計算方法（試合日が5月5日の場合）>（本規則 1-11 関連）

